



歴史を少々

900 年前、精神的刷新の大きな動きがブルゴーニュ地方にあったシトー会の修道院で起こりました。中世ヨーロッパには700以上のシトー会修道院が生まれていました。聖ペルナルは新しい隠修修道院を思い描いていました。簡素な中で一致し自分達の活力の元となる聖ベネディクトの戒律（6世紀）を遵守するシトー会の修道士たちは修道院の中で祈りと労働の生活を送っています。この修道院はつねにセナンクのように隠遁できる場で生活しています。

この共同体の生活は深夜から夕方までの日々の七つの聖務日課で区切られています。仕事は主に農作業です。司祭ではない修道士たちが一緒に働いています。

1148 年 セナンクのノートルダム修道院は Vivarais 地方（昔南西部）のマザン市から来たシトー会修道士によって設立された。建設には 100 年かかった。

1178 年 カバイヨンの司教によって教会堂の聖別。修道院の建設は最初に教会が、続いて仮の住居棟が建てられる。

13 紀から 14 世紀 修道院の最盛期。風車 4 機、穀物倉 7 棟、そしてプロバンス地方に多くの土地を有する。

1544 年 宗教戦争。修道院は荒廃し、助修道士の建物は破壊される。

1791 年 フランス革命。修道院は国有財産として取られる。

1854 年 バルノアン師によって買い戻され修道院として再建される。「無原罪の御宿り」のシトー会修道士共同体が居住する。

1903 年 修道会法によりセナンクの修道士たちは追放される。

1926 年 修道院の再開。

1969 年 修道士達がカンヌの沖合、Lerins 諸島の聖・オノラ島にある母修道院に引き上げ、セナンクは約 20 年間文化センターとなる。

1988年 オノラ島の修道院に再び召命があり、シトー会の伝統に沿った 小さな共同体としてセナンクに修道士を送ることになる。

1998年 セナンク修道院創設 850 周年となる。

聖務日課

共同体で行われる典礼は一般に開放しています。精神統一と祈りのための雰囲気を守ってください：聖務日課を行っている間の入退室、撮影、録音は禁止、きちんとした服装をお願いします。聖務日課中の見学もお断りします。
ミサ 日曜・祭日 10 時、月曜 8 時半、火曜から土曜 11 時 45 分

朝の祈り 7 時 45 分、月曜のみ 8 時

晩の祈り 毎日 18 時 就寝前の祈り 毎日 20 時 15 分

霊的黙想

沈黙と精神統一のこの共同体の祈りの生活をともに過ごしたいと望む人々を、修道院の宿泊施設に受け入れています。宿泊接待係りに連絡してください。

宗教書売り場

聖書、修道院生活書、カトリック信仰書、キリスト信者の生活書、典礼書、宗教書、歴史書、宗教音楽の書籍やCD、修道院製作品、この地方の名産品、蜂蜜。

この修道院生産品：野生のラベンダーのエッセンス、ラベンダー、蜂蜜。

ネット販売：www.abbayedesenanque.com

見学

この共同体は 12 世紀の建築群の見学をガイド付きで認めています。毎日数回の見学時間があり、所要時間 1 時間、仏語のみ、定員制限あり。前売りチケットは現地で、またはネットで購入。見学は個人対象、団体は要予約。（団体見学は特定条件付）

日曜・祭日：午後のみ。11 月中旬から 1 月末までは午前中休み。1 月の第 2 週と第 3 週、聖金曜日、12 月 25 日（クリスマス）の見学は休み、また日や時間によって修道院の都合で休みになることがあります。

セナンク修道院はシトー会「無原罪の御宿り」修道会の所属である。管理や維持に必要な工事は共同体が担う。入場料、店の売り上げや寄付金で資金調達をしなければならず、修道士の製作品、ラヴェンダーの栽培、蜂蜜の生産は共同体の生計を立てるために寄与している。

Abbaye Notre-Dame de Sénanque

F-84220 Gordes (ゴルド)

共同体：+33(0)4 90 72 02 05 - 書籍・見学：+33(0)4 90 72 05 86

Abbaye de Notre-Dame de Sénanque



セナンクの
ノートルダム
(聖母) 修道院

“神を愛する限度
それは限りなく
神を愛することである。”
聖ペルナル

修道院を訪れるにあたって...

シトー会のセナンク
ノートルダム 修道院は喜んで
あなたを歓迎致します。修道士
の祈りの生活とこの 修道院の
静かな雰囲気を守るため見学
の間はガイドに従っていただき、
静かさを守るようどうぞよろ
しく願いいたします。

私たちの祈りとともに

84220 GORDES - FRANCE

小さな谷間に閉じこもったセナンクのノートルダム修道院はシトー会の建築様式と生活における、もっとも典型的なモデルのひとつとして残っています。シトー会修道士の共同体は 1988 年からセナンクで生活し祈っています。

この共同体があなたをお迎えます。

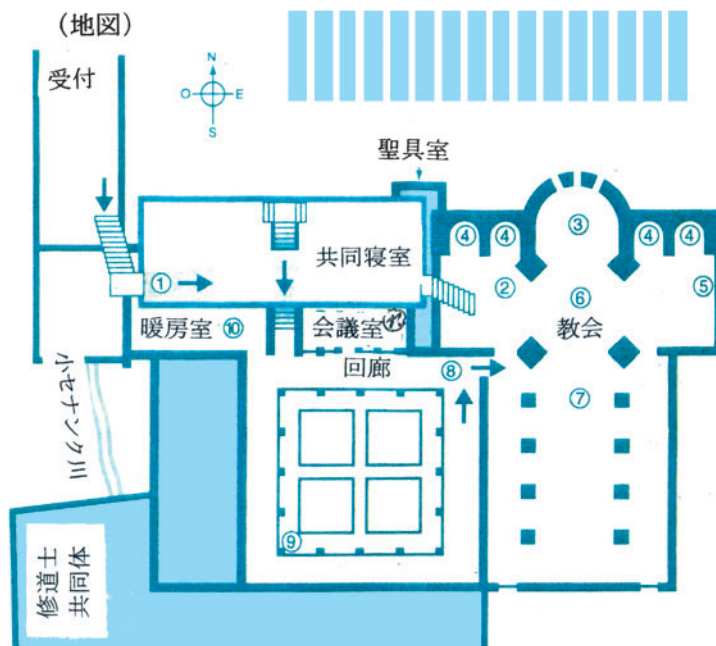
修道士達の共同寝室

この共同寝室①には 30 人の修道士が床に藁マットを敷き、着たままで寝ていました。寝室は長さが約 30 m あります。二重になった二つのアーチで不均等に 3 つに分けられ、先がとがった形の丸天井で覆われています。壁の上部と丸天井の下部の間にあるコルニッシュ（軒蛇腹）が丸天井組み立てのための木製のせり枠を支えています。西側の壁にはバラ窓と一つの窓が開けられています。後の度重なる工事で建物が弱くなりましたが、初期のセットバック（壁の引っ込み模様）は丸天井のものと同じ石で出来ていました。

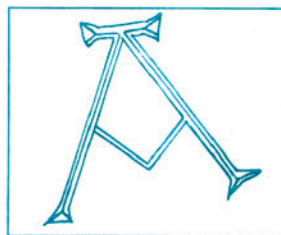
修道院の設計は修道士の絶え間ない祈りと共同体の典礼を見据えて完璧に立てられているので、寝室は教会の翼廊に直結して作られました。朝 2 時に修道士たちは教会での最初の祈り（聖務日課）のために寝室を離れ、夕方最後の祈りのあとすぐに就寝のため寝室に戻っていました。

回廊

寝室中央の階段を下りると回廊に出ます。ここは修道院の中心の閉ざされた場所です。通路でもあり修道院の異なる部分をつなげていますが、何よりも黙想と聖書を読むための場所です。教会の入り口近くに並ぶ古い手書きのアルマリウム（戸棚）があるのにご注目ください。内庭のある回廊は 12 本のアーチを持ち庭に向かって開かれた四面の廊下で縁取られ、ここでも装飾のなさを感じさせられます。円柱の柱頭は異なる植物のモチーフだけで飾られています。南側の歩廊から (9) 教会のロマネスク様式の鐘楼とフランス南部独特の薄い石板の屋根瓦（骨組みなしで組み立てられている）がよく見えます。南西の角にある丸天井の覆いがない泉は宗教戦争の時に破壊されたものです。



作業用のしるし：石の上に彫られたサインやイニシャルで修道士が建築を石工達に手伝ってもらっていたことがわかります。石工達は賃金を払ってもらうためのメモ代わりにしるしをつけていました。数百ものしるしがセナンクでは見られます。



暖房室

ここは修道士達が働きに来る所、スクリプトリウム、つまり手書きで写本をする場所でした。名前からわかるように修道院を暖める唯一の所でもありました。この小部屋の丸天井は、中央から頑丈な円柱の方に垂れ下がっている四つの交差ボルトに支えられています。この円柱の柱頭には水しぶきとユリの花の飾りがついています。大きな暖炉には焦げあとが残ったままの円錐形で垂直な柱身があります。外から見ると二つの小頂塔があるように、最初は暖炉が二つありました。

大修道院付属教会

西の下側から教会②に入ります。左手（翼廊の西側の翼部分）の段を上ると前方右に後陣③があり、三つの開口部から射す光が祭壇に集まっています。この大きな後陣は典型的なロマネスク様式の二つずつの小聖堂に両側から挟まれています④。それぞれの小聖堂はプライベートのミサや小さなミサ（たとえば信徒や後援者の追悼のため）に使われます。正面東側の壁には二つの小窓と車輪のような飾りの大きな丸窓⑤があります。その下にはセナンクの後援者ジョフロワ・ヴェナスク卿の墓と墓碑が見られます。上方翼廊の交差するところに半円形型の丸天井⑥が四つのトロンプ（入隅迫持）の上に乗っています：四つの小さなかまどのような丸天井、6枚の葉模様のアーチ型で、翼廊の交差部から丸天井の頂点の八辺形までの四面を支えています。

続いて身廊に入り奥のほうに座って⑦、簡素の極みである典型的なシトー会の教会を全体的に眺めてください。教会は十字架の形に作られています。修道士たちの祈りと精神統一の邪魔にならないよう装飾はありません。神の象徴である光だけが空間に変化をつけています。修道士たちが聖職者席を占め助修道士たちは現在のベンチのある所に座っておりました。助修道士は奥の脇の戸から教会に入っていました。珍しいことに、ここには大きな正面入り口がありません。

会議室

会議室⑩は修道院長を囲んで共同体の修道士たちが集まるホールです。その集まりは聖ベネディクトの戒律の一部を聞くためのものです。修道士達が共同体に関して決定を下したり、志願することを決めたり、修道誓願を立てたり、修道院長を決める選挙を行ったりするのもここです。修道士たちは段になった所に座ります。修道院長の座る中央の席は回廊にある（日本の狛犬のような）悪魔の顔の彫刻像の正面になります。このホールの特徴、それは音響の繊細さです。ここでは、とくに交叉ボルトの 6 本の石のリブ（格縁）のお陰で、小さな言葉も難なく優雅に聞き取れます。ここだけは話をして良い場所です。